白石小学校だより

山口市立白石小学校
第１０号
２０１９.2.1発行

やさしさにつつまれたなら

ある読み物に「はっとした　心に響いた「ことば」」というコーナーがあり、温かなエピソードが載せられていました。

学校から帰ると母がいつもぎゅっとだきしめて
「がんばったにおいがする」
といってくれた。
その母に「最近言わないね」と言ったら、
「今は毎日楽しそうだから」と･･･少し寂しいけど、成長を認めて
もらってうれしかった。という中学生の話です。

記事を読んで二つのことを思い出しました。
一つは　年末の紅白歌合戦！ユーミンの「やさしさにつつまれたなら」をいいなぁと聞きながら、「小さい頃は～神様がいて～　毎日愛を届けてくれた～」という歌詞です。

多くの人が感じる子どもの頃のうれしさ、家族に温かく見守られていた感覚、いろいろなことがありながらも、幸せに過ごしていた日々が見えてきます。

もう一つは自分自身の経験として、大人になってある大きな木の下（小学校のときいつも遊んでいた場所）に立ったとき、懐かしさと共に、妙に温かい気分になったこと。
その温かさの正体は、懐かしさと一緒に、家族に･･･祖父母に･･･慈しまれやさしさにつつまれていた子ども時代の自分の感覚がそのままあらわれてきたようでした。

今、目の前にいる子どもたちが大人になったとき
「神様がいて」「やさしさ温かさがよみがえる」ような今にしてやりたいですね。
「やさしさにつつまれた」子ども達は、「やさしさでつつむ」ことのできる幸せな大人になっていきます。

ますます寒さが厳しくなりそうです。
「温かさとやさしさにつつまれた白石小学校」でありたいと思います。

白石小学校　藤永靖彦